OCC メディカル・カフェ　ニュースレター 『賢明な寛容:the wise patience』 第14号

2024 年 2 月　発行『お茶の水メデイカル・カフェ in OCC』

ニュースレター第 14 号をお届けいたします。毎号カフェ責任者の樋野先生のお言葉と、スタッフのリレー投稿となります。 今号はスタッフの山﨑が担当いたします。

『冗談を本気で実現する胆力の育成』 ～ 『OCC カフェの心得と原点』 ～

樋野興夫（順天堂大学名誉教授、新渡戸稲造記念センター長、恵泉女学園理事長）

2024 年 2 月 10 日（土）午後は、定例の『お茶の水メデイカル・カフェ in OCC』に出席した。 筆者は、個人面談の時も与えれた。 大変有意義な充実した貴重な時となった。 初めての参加者もおられた。 会場での参加者のコメント、またスタッフの皆様の真摯な姿には大いに感動した。

筆者は、勝海舟(1823-1899)の奥さんの民子(1821-1905) の言葉と、ゲーテ (1749-1832) とヨハンナ・シュピリ（1827-1901）を紹介し、さりげなく『OCC カフェの心得と原点』を語った。

また、アメリカの南カリフォルニアで、メディカルカフェを開催されている石嶋まりこ氏からのメールと韓国のソウルのミョンジ(Myongji)大学で、『メディカルカフェ in ソウル』を開設され、韓国語の本の出版を企画されている夫妻が、次回の OCC カフェ(3 月 23 日)に参加されること、 また、筆者の本が北京大学出版社から中国語訳が出版(2017 年；添付)されたことを紹介した。

『われ 21 世紀の新渡戸とならん＝われ日本海(中国＆韓国＆日本)の懸け橋とならん』を冗談を本気で語った。 【『冗談を本気で実現する胆力の育成』は、『お茶の水メデイカル・カフェ in OCC の心得と原点』】であろう！

今月のカフェは寄り添いについてまた深く考える機会となりました。

カフェに来て気持ちを受け止めてもらえたことで「荷を下ろすことができた」というご感想を伺うことができました。私たちは、自分の納得がいかないこと、自分を許せないこと、誰かを許せないこと、気づかないうちに多くの荷物を背負って生きています。それは知らないうちに時折抱えきれないほどの重さになり、押しつぶされそうになることがあります。でもそのことを言葉にして語ることで、ふっとその重荷が昇華されたり、捉え方が変わって荷物がギフトに思えるようになることがあります。

でも日常の中では、親しすぎて言えないことや、家族ゆえに打ち明けられないことや、反応が怖くて話せないなど様々な理由で言葉にできないことが多々あります。

スタッフをはじめご参加の皆さんはそのことを十分にわかっているので、受け止めてもらえる場や人の存在が必要で、それがカフェの役割であると認識されていると思います。安全な場所で気持ちを吐露したり、涙を流したり、そしてまた前に進む力を得る、寄り添う人のもとで、誰かに諭されるでもなく、押し付けられるでもなく、自分で力を得られる、そんな場所づくりをいつも心がけています。

力を得た方は、また誰かに寄り添える方になっていかれる、そんな姿を見させていただいています。カフェは毎回ご参加のメンバーやグループが異なることで、色々な化学反応を起こしています。私もスタッフとして毎回の出会いと学びと感動をいただいています。いつでも戻ってこれる場所としてお茶の水メディカル・カフェ in OCC は存在し続けますので、これからも羽を休めにいらしてください。

お茶の水メディカル・カフェ in OCC スタッフ　山﨑智子